

満百年の創立記念日を迎えて

岩室小学校

三月十日は岩室小学校の尻引(田子島)が組合村として、旧来の私塾館に修理を経て、文部省の認可を得て開校したが翌六年三月十日である。百年前の開校の当初より独立の校舎を保有したものは稀にみるものであり、今秋には記念式典をはじめ祝賀行事の計画もあつた。ここに創立の趣意とその一端をおしらせる。

(1) 岩室教育の夜あけ

幕末の頃子女の教育に熱心な有志が「幼稚ニ教無クンバ百年整成期スベキニアラズ」という考えから、安政元年(一八五四)岩室村地蔵庵の堂宇を借り和漢の私塾をひらいたのが学校の基となったものである。当時の里正(村長)職高島翁平が常に学事の貴重なものを説かれた功によるものである。塾長は横曾根村菅井甘露があたり、十五年間日夜子女の教育につくされた。維新後横曾根に移されたからは、近藤良根(松岳庵主)が指導に当り、明治六年の開校までつづいたものである。

(3) 創立の頃のすがた

校名 第五中学区第十七小学校区公立峰岡校付属分校岩室校
場所 岩室村第四百二十九番地(現公会堂)
校地面積 一七五坪
校舎坪数 三六坪
教室一 九坪
男児控室 五坪
女児控室 四坪
教員室 四坪
面接室 四坪
便所其他一〇坪
学校予算 七三三〇〇円
世話掛 岩室村 岡崎五三郎
教師 赤塚村 大石 寛三

(2) 学制発布と岩室校

明治五年八月、学制が定められたる従来学則を改正し峰岡校の分校(岩室校)となり普通小を教授することとなる。近隣六ヶ村(岩室、石瀬、種曾、橋本

(月給 壹門五拾銭)
(月給 壹門)
児童数 男六四、女五〇
計 六九人
※明治六年の米価
一石 五五〇八銭
※村名などは自然村時代の名をそのまま(現学名)

(4) 初期のうつりかわり

地域民の熱意により開校された岩室校は日に児童数を増して教室も狭隘となり、明治十年二教室三〇坪の増築工事を(二二〇円)を行い二階建てとなり、更に明治十五年に一八坪の増築工事を(二二二円)を行い堂々たる偉容を示した。

(5) 功勞の方々

高島翁平(一八四四〜一九一〇)
天資英邁幼ニテテテ好ミ朱子ヲ學ビ、後戸長ニ任ゼラレテ二十年ノ長キニ職ニアリ、特ニ学事ニ熱心村

内ノ有志ヲ率先シ、安政年間村内ノ仏字ヲ借館シ私塾ヲ開設スル始メヨリ学校ニ改タムル爾米村民ヲ鼓舞作興シカノミナラズ村内他事ノ集會ニモ学事ノ貴重ナルヲ論議シ總テ学校ノ規模ヲ定ルハ皆同氏ノ志緒ナリ。
菅井甘露(一八一〇〜一八九〇)
岡崎の生れ仏門に入り後全国行脚の旅に出て岩室にどまり元治元年横曾根村菅井家に入り養子となる。生来実直温厚デアリ二十

春の火災予防に
春先はとかく気がゆるみがちであり、空気の乾燥などから例年火災が多発しやすいく、また大火災になりやすいので、県下一斉に四月一日から七日まで、春季火災予防週間として、全国一斉に実施されます。
この火災予防運動週間中消防団員が各家庭の火元点検に、消防署員が旅館、工場、ガソリンスタンド、サケタモイワレル。寺小下等、防火施設の点検に何屋ヲヒラキ曾根燕ト遠近ニいします。よろしくお願ひ多クノ門弟ヲ輩出シタ。峰致しませ。

昭和四十七年度第三回(最終会)
産業育成資金の貸付についてお知らせ
このことについて左記の要領により貸付いたします
一、貸付限度額五十万
二、但し審査により減額される場合もあります。
三、利率 日歩二銭五毛
四、申込期限
昭和四十八年三月十日(土曜日)期限厳守
五、申込場所
商工会事務所又は岩室村役場開発課
なお申込書は商工会事務所又は役場開発課にあり
ます。

おまかせおまかせ
2月19日まで

婚姻の部
氏名 喜春 喜春 喜春
(藤田) 喜春 喜春 喜春
(渡辺) 喜春 喜春 喜春
(石瀬) 喜春 喜春 喜春

出生の部
氏名 新太郎 昇二 誠孝 正巧 春治 昭夫 幸正 五郎 静夫
生年月日 48.1.10 48.1.11 48.1.12 48.1.16 48.1.19 48.1.24 48.1.26 48.1.27 48.1.30
保護者 新太郎 昇二 誠孝 正巧 春治 昭夫 幸正 五郎 静夫
住所 和納 和納 和納 和納 和納 和納 和納 和納 和納

死亡の部
氏名 大越 佐藤 斎藤 徳田 柏木 幸村 寺田 山田 古川 小岩 大岩 松本
年齢 74 77 77 75 69 69 64 61 61 61 61 61
死亡年月日 48.1.19 48.1.26 48.1.28 48.1.28 48.1.29 48.1.31 48.2.7 48.2.8 48.2.8 48.2.8 48.2.8 48.2.8
世帯主 幸平 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫 幸夫
住所 高橋 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納 岩納

たばこは村内で買います。